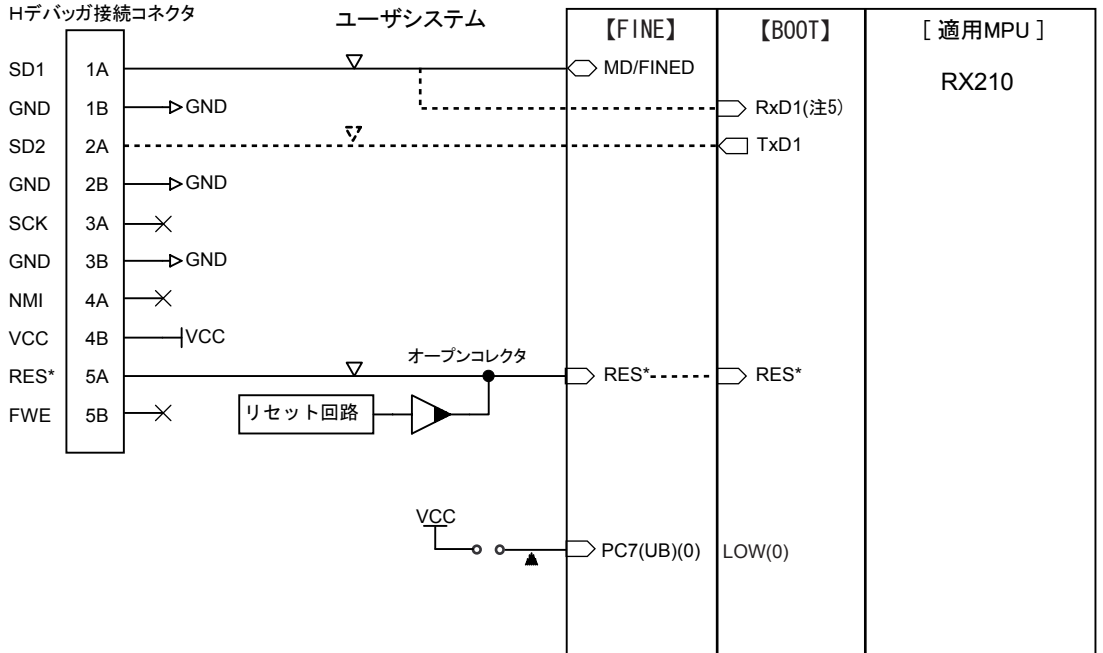


### 【接続例31】RX200シリーズの場合 (FINE/BOOT接続)



- 1) ▽印はプルアップ抵抗です、▲印はプルダウン抵抗です。抵抗値は4.7K~22Kの範囲を推奨します。
- 2) リセット回路の遅延時間は、100mSEC以下になるハードを設計して下さい。
- 3) PC7を切り替る回路(エミュレーション:LOW ユーザブートモード:HIGH)は、ユーザ側で用意して下さい。
- 4) RES\*信号はH-debuggerから制御(出力)していますので入力になります。
- 5) BOOT接続のRxD1は接続替えが必要です。
- 6) BOOT接続はプロテクトIDコードの設定ミス等により不明となりFINE接続が不可能になった場合の解決策として、フラッシュROMを全消去する時に使用します。